

2014 年 5 月 26 日

環境情報学部 4 年

碓井宏宜 (71141274)

1) 文献詳細

タイトル：コミュニティ支援、べてる式。

著者：向谷地生良、小林茂（編著）

出版社：金剛出版

出版年：2013 年

2) 構成

第 1 部 浦河べてるの家のコミュニティ支援

第 2 部 浦河べてるの家のコミュニティ支援の展開

第 3 部 浦河べてるの家のコミュニティ支援の未来

3) 内容にふれて

べてるの家：1984 年に設立された北海道浦河町にある精神障害者等をかかえた当事者の地域活動拠点。生活共同体、働く場としての共同体、ケアの共同体という 3 つの性格を有す。

ピークにの 1988 年には 130 床までに膨れ上がった精神科病床は、2001 年の地域以降計画にともなう病床削減によって 60 床になっている。その計画を推進するにあたって大切にされたのが、転院でなく地域で暮らすことを目標とした点であり、それを可能にしたのが「浦河べてるの家」の存在であるという。

地域でケアするというビジョンに近づいた日本における「先駆的事例」としての「浦河べてるの家」および浦河町の地域ケアについての文章が載せられている。（「浦河だからできた」のか、「浦河でなくともできる」のか。）

全体的に、地域ケアと不可欠と考えるためでもあるだろうが、当事者性や自助活動、ピ

アサポートの要素が強い。

4) 今後に向けて

研究内容を確定させなければならない。一つ、コミュニティ支援の形として今回の本を選んだ。テーマが一度は決まりかけていたが変わるかもしれない。どちらにせよ「家族」に関係させて話をするつもりである。

5) 参考 URL

「べてるねっと.jp」 (<http://bethel-net.jp/betheltoha.html> 2014.5 閲覧)